Q 鶴ヶ島駅周辺地区のまちづくりについて

大曽根英明（おおそねひであき） 議員

A 新たなにぎわい、交流の創出を目指す

（仮称）Nゲージとガーデンパーク 完成イメージ図

問 まちづくりの新たな拠点について。

答 株式会社関水金属との官民連携による新たな交流拠点を核として、鶴ヶ島駅周辺地区のまちづくりを進めるもので、㈱関水金属工場敷地内の緑地とそこに隣接する鶴ヶ丘児童公園を一体的にリニューアルし、魅力ある公園、緑地として生まれ変わる予定である。鶴ヶ島の新たなまちづくりの拠点として、地域住民をはじめ多くの市内外の方たちの憩い、にぎわい、交流の創出を目指していく。

問 まちづくり構想等の策定について。

答 鶴ヶ島駅周辺地区のまちづくりは、大きく3つの段階で進める。第1段階は鶴ヶ丘児童公園の再整備、第2段階は再整備により生まれる新たな拠点、仮称「Nゲージとガーデンパーク」を核としたまちづくり構想等の策定、第3段階が構想等に基づく事業の実施である。

問 事業化について。

答 今後2年間かけて策定するまちづくり構想及び整備計画に基づき、令和6年度以降、順次事業化を進めていく予定である。地域にとって何が必要かを考え、具体的な実施内容は構想等の策定の中で検討していく。

Q ボール遊びができる公園について

持田（もちだ） 靖明（やすあき） 議員

A キャッチボールができる条件を検討する

問 本市におけるボール遊びができる公園の適量とは。

答 軟式野球ボールなどを使用したキャッチボールができる公園は、富士見中央近隣公園、鶴ヶ島南近隣公園、脚折近隣公園の3か所で、特に基準はないが、適切な位置に配置されていると考えている。なお、近隣公園全体の土日・祝日の稼働率は、2年度の実績で51・9パーセントである。

問 鶴ヶ島市運動公園でできるボール遊びについて。

答 多目的広場Aは、運動公園の前身において、サッカーができる広場として利用されていた経緯から、サッカーボールの使用を認めている。多目的広場Bは、暫定的に子ども広場として開放し、キャッチボールなどは禁止とした。今後、どのような条件整備をすれば安全にキャッチボールができるかを検討していきたい。

問 各公園における各種情報のホームページ掲載について。

答 より分かりやすく利用していただけるように見直し、運動施設の団体予約の状況をホームページに掲載することについては、ルール作りを検討しながら進めていきたいと考えている。

◎その他の質問 鶴ヶ島市における空き家対策について